

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600401		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	あったかいごグループホーム大堤 1階		
所在地	〒024-0054 北上市大堤東2丁目1-32		
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを尊重し、家庭的で暖かい雰囲気の中で365日安心して過ごしていただけるようケアを実施している。
 月2回の訪問診療・毎週1回の訪問看護・必要な時にお問い合わせいただける訪問歯科と連携し、入居者の体調不良の早期発見・早期治療に努めている。また、ご家族様、ご本人希望にて看取りも可能である。
 現在コロナ禍ではあるが様々工夫をし、施設内では計算ドリル、塗り絵、や季節行事を行ったり、天気の良い日は予防策をとり車窓から季節を感じていただけるようドライブに出かけ気分転換を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、公民館や集会所、公園、畑などがある閑静な住宅地にあるベージュを基調とした明るい2階建の建物で、1階と2階の2ユニットで構成されている。職員は理念である「共に和み・共に生きる」に基づき、利用者が安心して生活できるように職員ごとの目標を立て、一人一人の思いを尊重し、穏やかな気持ちで過ごせるよう支援している。終末期における看取りも含め、訪問診療、訪問看護ステーションとの医療連携も図られており、利用者や家族からも信頼と安心感を持って受け止められている。天気の良い日には、事業所周辺の散歩や玄関前でのひなたぼっこ、また利用者の要望に応え、ドライブを兼ね利用者の自宅周辺や馴染みの場所へ出掛けたり、花見や紅葉見物にも出掛け、気分転換を図りながら外出支援に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み」「共に生きる」という事業所理念を作成している。 1、家庭的な雰囲気の中、笑顔ある生活環境を目指すこと。 2、そのひとらしさを常に考え、利用者の立場に立った行動をすること 3、常に自己評価し、利用者・家族から信頼される態度と姿勢を目指すこと 4、地域に開かれた事業所作りを目指す この4つのことが実践できるよう、事業所内に掲示し、朝礼時に唱和し意識して行動できるよう努めている。	事業所理念「共に和み、共に生きる」を基に、更に具体化した4つの運営方針を定め、事務室や事業所内の目の届くところに掲示し、更に朝礼時にも唱和するとともに、職員毎の目標を立て理念等を意識しながら業務に当たっている。課題や改善点がある場合には、日々の業務の中で話題にし、取り組んでいる。	新たに取り組んでいるグループホームの標語(スローガン)を設定され、より充実した介護サービスの提供を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年より新型コロナウイルスの影響によりたくさんの行事が中止となり、交流することが難しくなったが、夏祭り開催で参加を求めることはできなかったが、駐車場で打ち上げ花火を行った際には、隣近所の方が見に来ていただいた。	運営推進会議のメンバーでもある区長を通じ、年3、4回、施設の状況や活動の内容と利用者の写真を掲載した事業所広報誌を地域に発信している。駐車場で花火を近隣の方々が見に来てくれたり、野菜の差し入れ等もある。コロナ終息後は、以前のようにたくさんの方々と交流を図りたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に事業所で広報を作成し、事業所の取り組みなどを掲載して、地域の広報誌と一緒に配布していただき、施設の状況や活動等、地域へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年より新型コロナウイルスの影響により4月から文章で会議の中止と、活動報告等を書面で郵送しご意見、要望をいただき議事録を回覧している。	コロナ禍により、運営推進会議を書面開催とし、委員から意見や要望をいただいている。議事録を職員に回覧し共有を図っている。以前は区長の提案で地区公民館での文化祭に出品したり、敬老会に呼ばれていたが、現在はできない状態にある。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点があれば、随時相談し指導を受けている。地域ケア会議などにはコロナ禍で申し込みしたとしても、後日中止の知らせで参加できていない。	市の担当者が運営推進会議のメンバーになっていることもあり情報を得られやすく、行政情報のメールでの提供のほか、疑問な点があれば随時相談をし指導を得ている。要介護認定申請時の認定調査や区分変更に関しても直接事業所に来訪してくれることもあり、協力関係は築けている。市による身体拘束や虐待のアンケートに協力し、とりまとめられた事例集を業務に活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度、職員会議にて、身体拘束廃止に関する指針の読みあわせを行い、年に2回、身体拘束についての研修を行い身体拘束について再認識し業務を行っている。また、月1回「ヒヤリハット委員会」を開催し、各事業所の事故事例を話し合い、身体拘束を行わないための知識を深めている。	それぞれのユニット会議に合わせて、3カ月に1回委員会を開催し、協議結果を職員に回覧し趣旨を徹底している。業務の中での言葉遣いは、職員間で注意し合い意識の喚起に努めている。家族の同意を得て、離床センサーを両ユニット合わせて10名に使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の身体拘束廃止の研修の時に、虐待防止についても話し合いをし理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で権利擁護についての小冊子を購入し、職員に読んでもらうようにしているが、理解と活用はできていない。今後、成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、概ね1時間ほどの時間を頂き同意に勤めている。疑問点等についてはその都度説明している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居宅サービス計画書を作成し、自宅へ郵送し、意見、要望を記入していただき返送して下さるようお願いしている。また、以前は面会時に相談をうけることがあったが現在は電話で聞くことが多くなっている。	家族との連絡は、電話やタブレットにより行っている。居宅介護計画を作成し、毎月利用者一人一人の家族に居室担当者が状況報告と写真を送り、意見や要望を記入し返送していただいたり、受診介助に見えた時や電話で伺っている。10月からは家族との外食や10分の居室面会を可能とした。面接や受診付き添いの際にも家族から要望等を聴いている。編み物、刺繍などの趣味、外出や食事、お手伝いなどの利用者の要望にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の場以外に職員会議、カンファレンスの場で職員間で意見交換し早期対応ができるよう努めている。また、面接をし意見等聴ける場を作っている。	利用者の支援に関する改善策について、日常の業務の中や会議等の場で職員から提案があり、乾燥機や電子レンジなどの整備のほか、日々の生活に計算ドリルや塗り絵を取り入れている。職員が設定した目標について年度末に振り返りを行い、管理者との個人面談を通じ、行動結果と反省から運営に関する職員の気持ちの把握にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を実施し、定期的に個人面談を行なっている。日常業務以外にも、経験・能力を考慮した上、係・行事企画を行なってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や法人主催の研修など行っていない。事業所内の研修は、身体拘束廃止、虐待防止への取り組みの研修は年2回行い、また法人内で知りえた情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。県内の同一法人内で「ひやりはっと委員会」を月1回開催、福祉部会を月1回行ない、情報の共有を図り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の前には、予防策をとり本人にお会いし、話を聴く機会を設けている。また、可能な際には利用前に一度施設内見学をしていただき説明もなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談時には、家族の要望や、困っていること、不安なことに耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のADLの状態や家族の介護力の問題など、多角的に考え適切なサービス利用に繋がるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動の背景には何があるのか原因を見つけ、本人の出来ること、やりたいことを一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙で、利用者の心身の状況や行事で撮った写真を添えて、家族に近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが、利用者の要望に合わせ、車窓にて気分転換に外出をしている。また、個々の都合に合わせ、社会情勢に合わせて、しっかりと予防策をとり美容院・通院等継続していただいている。	利用者の要望に応じて車で出掛け、車窓から景色を見たり、自宅周辺へドライブし気分転換を図っている。2ヵ月毎に来訪する理美容師が馴染みとなっている。親族や友達とはタブレットでの面会で、関係性の維持と継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や嗜好に配慮した座席の配置をしたり、孤立することのないよう目配りし側に寄り添いよい関係が保たれるよう努めている。		

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、必要に応じ関係機関への情報提供等を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご自宅を訪問し、これまでの暮らし方や交友関係、趣味、嗜好などを調査しアセスメントを作成、職員間で共有した後その人にあつた対応を支援している。	入居前には、自宅を訪問し面談等でこれまでの暮らし方、趣味、嗜好を利用者や家族から伺い、入居後も日々の行動や会話から、利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や行動から背景を探り、職員間で情報交換し共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細なことでも記録にし職員間で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新規入居者様は初回は3か月に1回モニタリングを行っている。その後は体調、行動、言動に変化がなければ半年に1回行っている。計画の更新時には利用者あるいはご家族様に説明をした上で決定している。	居室担当者が3か月に1回の割合でモニタリングを行って評価と課題を確認し、次いでカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者が医師や訪問看護師の意見・助言を盛り込んで介護計画を作成している。変化がない場合には6か月毎に見直しを行なっている。家族に案を示し、同意を得て決定としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌に記録し情報の共有を行っている。その他に申し送りノートを活用し、休みの職員でもわかりやすく記録に残し職員会議にはその記録ももとにして話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生きるニーズに関しては、電話や来訪した際にお伝えし、対応している。また、訪問看護を週に一度利用している。伝えなければいけない事項は直ぐに対応するように取り組んでいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回避難訓練を行っている。また、災害時等の避難場所や災害状況等を知らせるため市との連携も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際には、心身の状態について、「受診連絡票」「バイタルチェック表」を家族に渡して主治医に伝えていただき、適切な医療を受けられるように支援している。また、訪問診療、訪問看護も定期的に行っている。	家族の付き添いで入居前からのかかりつけ医を2ユニットで10名が受診し、残りの8名は月2回の訪問診療を行う協力医を受診している。かかりつけ医受診の際は、「受診連絡票」「バイタルチェック表」を家族に渡している。訪問歯科も受診している。新型コロナやインフルエンザの予防接種は、協力医が行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は1階は毎週火曜日。2階は毎週水曜。日々気になることや気を付けてほしいこと等助言をいただいている。必要時には主治医への連絡・調整も行っていたいっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には随時、ご家族様に連絡を取った後、医療関係者とも情報交換を細目にとり、必要な時は病院へ出向き退院後の情報や身体状況を確認し相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、同意を得ている。日々の経過観察を行い、必要時には、上司に指示を仰ぎ、主治医・訪問看護師に相談し取り組んでいる。	重度化時の対応や看取りに関する指針については、入居時に家族に説明し、同意を得ている。状況の変化に応じ、家族の意向を確認のうえ、それに沿って終末期における対応マニュアルによるケアを行ない、看取りを行っている。看取りに当たっては、医師や看護師の指示、指導を得ている。看取り後に職員会議で反省などを話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変・緊急マニュアル」を作成し、全職員に説明・配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、6月と12月に消防訓練を実施している。うち1回は消防署員立会の下で行っている。災害時の防犯グッズや非常食等も、備えている。	火災避難訓練を年2回実施し、1回は消防署員立会で行っている。夜間想定訓練も実施している。ハザードマップで避難場所を確認している。今後、地震対応の訓練も必要と考え協議中である。非常食は3日分確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の対応でお互いに互いの行動、言葉がけ等を観察し、良い対応や気になった対応など声をかけあいその都度改善するよう心がけている。原則丁寧語を意識し、利用者の尊厳を大事に対応に努めている。	利用者の尊厳を損ねない言葉掛けや、対応に努めている。丁寧語を基本としているが、距離感を感じるという利用者もいるため、利用者に合わせた対応を心掛けている。入室の際にはノックし、排泄に関わる時には言葉を選んで対応している。個人情報、ファイルで保管し、広報紙への写真掲載は家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出・散歩・買い物・入浴時間等、本人の希望に沿った対応をその都度臨機応変に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れは出来ているが、一人ひとりのペースで希望に沿った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全て個人にお任せし、毎朝お化粧をされる方や、定期的に美容院に行かれる方、衣服をご自分で選ばれる等されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合わせ事前に調査し提供している。また季節に合わせた料理や行事食、おやつ作りなどを行っている。また、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けも行っている。	献立は両ユニットが1週間交代で立て、職員は月、水、金曜日に買い出しに行き、調理をしている。家族や近所からの差し入れもあり、旬の食材を提供している。行事食も好評である。利用者はおやつ作り、食器拭き、料理の手伝い、下膳など、出来る事を手伝っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は本人の状態や自身の申告によって調整している。また水分量やその日の食事量など記録し体重の変動にも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声がけをしたり、必要に応じて介助を行っている。また必要に応じて外部より歯科医に来ていただき治療も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の利用者2名。他はトイレにて排泄されている。排泄の訴えが難しい利用者は排泄パターンを把握することや、排泄記録を見て定期誘導を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握し、仕草等を見て、案内誘導している。失敗した場合は、清拭やシャワーで対応している。一人でトイレ使用ができる利用者は、1階が6名、2階は3名で、布パンツやリハビリパンツ、パットなどを使用している。夜のポータブルトイレ利用は1名、オムツ使用は4名である。介助の際には自尊心を傷つけないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分量を計測しなるべく1000cc以上は摂取するよう定期的に水分補給を行っている。便秘3日以上続いた時は看護師、医師に相談し下剤調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間の予定は設定しているが、その日の体調や意思を確認し無理をさせず臨機応変に対応している。また季節によってしょうぶ湯やゆず湯などで入浴を楽しんでいただいている。	週3回、午前中の中の入浴とし、その日の体調に合わせてたり希望を聞くなどして無理のない入浴としている。車椅子の方は、シャワー浴としている。現在入浴や異性介助を嫌がる方はいない。季節によって菖蒲、ゆず湯とし、入浴は世間話や歌を歌ったりする楽しみの時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操や散歩、階段の昇降、手工芸、計算等を行い生活リズムを整え安眠できるよう支援している。また個々の様子観察を行い午睡もしていただいたり、ソファでくつろげるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は、お薬情報提供書によって効果・副作用を確認している。お薬は施設管理とし準備や与薬については必ず職員2人で確認を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、モップ掛け、食器拭きなど可能な範囲でお手伝いいただいている。また、個々の希望に沿って園芸作業、手芸や計算、ぬりえなど声かけし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に応じてドライブにでかけ、車窓ではあるが気分転換が図ることができている。	天気の良い日は“ふる里めぐり”のドライブで自宅周辺へ行ったり、紅葉を見に夏油や江刺へ出掛ける等、月3回程度外出し気分転換に努めている。また、近隣の公園への散歩や玄関前のベンチで日向ぼっこをしている。散歩の際には近隣の方からの声掛けもある。10月からは家族との外食も可能となり、楽しそうに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金の持ち込みはご遠慮していただいているが、お金の管理が可能な方については現金出納帳を職員でつけて現在の残金を把握するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時、希望時には施設の電話を利用してご家族様と会話していただいている。手紙やハガキ等も本人にお渡しして読んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのソファは日当たりもよく窓からの眺めも良い。快適に過ごせるよう温度管理にも配慮している。また、ホールや居室の壁には行事や個々で作成した手芸、塗り絵を展示したり、季節に合わせて装飾し明るい雰囲気を出している。食事中はテレビを消して音楽を流し職員と会話をしながら食事をしている。	利用者が集うホールは、南向きの大型の引き戸から明るい光が差し込み、クリーム色の壁は、季節の飾りや利用者の作品、行事の写真などで飾られている。夏はエアコン、冬はパネルヒーターや加湿器などで室温24、5度に調節し、快適に過ごせるよう管理されている。またソファやテレビ、テーブルが置かれ、利用者は決められた椅子に座り、思い思いに楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテーブル席どちらでも過ごしてもよいように配置している。独りになることはなく、ほぼソファ席で過ごされ、歌番組を見たり、皆で会話され過ごされている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム大堤 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や小物、布団、テレビな どを持ち込んでいただいたり、ご本人が声にした 物などがあれば、ご家族にお願いし持ってきてい ただいたりしている。	居室の入り口には“笑い文字”で書かれた標札 があり、和みと微笑みを感じさせる。電動ベッド、 エアコン、パネルヒーター、クローゼット、洗面台 が備え付けられ、利用者は布団、テレビ、衣類、 衣装ケース、化粧品、時計など、自宅で慣れ親し んだ物を持ち込み、家族写真や自分の作った物を 飾ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫をして いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置して安全に移動ができるよう 配慮している。居室には全室電動式ベッドを完備 し、個々の身体状況に合わせた介護ができるよ うにしている。必要に応じ居室内にポータブルを 設置することができる。		